

かめだより

発行：医療法人鉄蕉会 亀田総合病院/地域医療支援部・地域医療連携室
発行責任者：亀田信介 編集責任者：唐鎌房子

〒296-8602 千葉県鴨川市東町929

TEL：04-7099-1261(内線7156)



index

- P2 … 看護部 認定看護師のご紹介
入退院支援における薬剤師の業務
第1回 お薬手帳について
- P3 … 内視鏡検査室のご紹介
- P4 … 地域医療機関さまより
- P5 … 当院診療科より
- P6 … リンパ浮腫で悩む患者さまを減らすための試み
- P7 … スタッフひろば
マイブーム
- P8 … トピックス 院内がん登録について
勉強会情報

看護部 認定看護師のご紹介



「急性期病院の認知症看護 認定看護師の役割」

認知症看護認定看護師
岩澤れい子

1. 急性期治療を受ける認知症の人と、関わる人たちへの支援

日本看護協会の『看護者の倫理綱領』は、あらゆる場で実践を行う看護者を対象とした行動指針を明示しています。認知症看護に関して注目するのは『条文4. 看護者は、人々の知る権利及び自己決定の権利を尊重し、その権利を擁護する』という部分です。認知症の人は、徐々に意思決定を行う様々な理解や表現が難しくなります。そのため、認知機能障害に配慮し、認知症の人が治療内容などを十分に理解し意向が示せるように、意思決定の支援を行う必要があります。

十数年前までの急性期病院の看護師は、認知症ケアへの学習機会が少なかったように思います。現場で求められるのは、日々進化する医療に対し、高度な技術を取得し対応する努力でした。そのため、認知症の人の困ったことに対し『何とかしたいけど、どう対応して良いかわからない』というジレンマを抱え、認知症ケアに苦手意識を持つ人が多くいました。近年、社会的にも認知症に対する関心が高くなっており、適切な認知症ケアの実践が求められています。認知症の人にとってのよい療養環境を提供するには、それに関わる職員の支援も必要と考えています。

2. 認知症の人が安心して入院生活を過ごし退院できるように

急性期病院では身体疾患の治療・ケアが優先課題となります。しかし、認知症の人は環境変化に敏感な面もあるので、日常生活を支援する看護師は、生活者としての視点と認知症の人の視点をもって全体をみる必要があります。緊急入院なども多いため、患者さまの生活史に対する情報不足が看護に影響することもあります。食事を摂ろうとしない・排泄を失敗する・昼夜逆転しているなど、生活行動の乱れに見える現象を、『認知症だからしょうがない』と考えるか、『生活環境が変わって混乱しているのでは?』と考えるかでは、看護介入の方法に大きな差が出ます。現場では、診療の補助業務や複数人のケアにおわれ、丁寧さを欠いてちょっとした気づきができないこともあります。職員教育の場面では、認知症の人への関りに『丁寧さと気づき』がとても重要であることを伝えていきます。

また、認知症の人が退院の後に生活する場合は、ご本人の身体的状態・社会背景などにより様々です。地域を含めた多職種と協働し、最も良い退院後の環境が選択できるよう支援していきたいと考えています。

認知症の人への理解を深め、共に学んで実践する。認知症の人が安心できる医療が提供できるような環境を整える。みんなが笑顔になれる認知症ケアに取り組んでいきたいと思っています。

入退院支援における薬剤師の業務

第1回 お薬手帳について

薬剤室 室長 西川和年

1. お薬手帳とは

当院では患者さまへお薬手帳の活用を推進しています。お薬手帳は、いつ、どこで、どんな薬を処方してもらい、過去にどんな薬を飲んで、現在はどんな薬を飲んでいるのかが一目でわかる便利な手帳です。

2. お薬手帳を持つメリット

- ・飲み合わせや薬の重複をチェックし、副作用や飲み合わせのリスクを減らします。
- ・副作用歴、アレルギー、過去にかかった病気などの情報

を伝えることができます。

- ・旅行や災害、急に具合が悪くなった時などに、自分の薬に関する情報を正確に伝えることができます。

3. お薬手帳の活用方法

- ・入院前、入院中の薬剤情報から退院後の服薬上の注意点まで記入欄があり、病院薬剤師から薬局薬剤師への情報提供として活用いただけます。
- ・おくすりの履歴、および医師・薬剤師等をはじめとした医療従事者、患者さま本人も記載できる通信欄は、地域

メデイカルレポート

内視鏡検査室のご紹介

医療技術部 内視鏡検査室 室長 内藤幹雄

内視鏡検査のイメージは？と聞かれて皆さまが思うことは「辛い」「苦しい」「受けたくない」とネガティブなイメージが真っ先に浮かんでくるのではないのでしょうか。昔に比べればカメラが細くなり楽になったとは言っても、まだまだ大変な検査です。では、つらく苦しい検査なのになぜ多くの方に受診していただけているのでしょうか。それは、内視鏡検査が早期発見から治療や手術まで多くの場面で活躍している検査だということだけではないからこそ。そうはいえども、できればもっと楽に検査を受けられれば良いですよね。そんな皆さまのお気持ちに寄り添い、サポートするのが私達内視鏡検査室のスタッフです。

亀田メデイカルセンター内視鏡検査室は消化器、呼吸器の内視鏡領域が担当です。病院、クリニック、健康管理センターの3部署で構成され、外来や人間ドックにて発見された病変を精密検査や内視鏡手術につなげることが出来ます。

内視鏡検査の進歩は著しく粘膜の狭帯域光観察や拡大観察を行い、粘膜構造を詳細に観察できます。また、超音波装置を備えた内視鏡ではより病変に近い体の内部から診断ができ、ピンポイントでの検体採取や治療が出来ます。その他、がんや結石の治療など、今までは外科手

術の適応であった症例でも内視鏡での手術が可能な領域が広がりがつつあり、患者さまへの負担がより少ない方法を選択できるようになりました。これらの進歩した内視鏡治療は高度な専門的技術が必要とされ、熟練した医師によって施行されます。内視鏡スタッフは医師の手に合わせ、機器や処置具の操作、また、患者さまの体調管理などを行い検査が安全で円滑に行われるように医師と協同(協働)作業を行っています。

内視鏡室のスタッフは看護師、臨床検査技師、臨床工学技士、内視鏡技師、事務員、洗浄員と多くの職種で構成され、検査中だけでなく事前の情報収集や検査後の体調確認、機器の整備なども担当しています。

私達は文頭で述べたような「辛い」「苦しい」「受けたくない」のネガティブなイメージから「楽で」「安全で」「また受けたい」とポジティブなイメージを持っていただければ、日々努力を続けてまいります。地域の皆様にご頼みいただける内視鏡室を目指して。

- スタッフ数 30名
- 検査室 14室
- 2018年度概算実績
 - 上部内視鏡 … 15,000件
 - 大腸内視鏡 … 7,000件
 - その他処置・手術等 … 4,500件



包括ケアシステムを担う関係者間の連携ツールとしても有効です。

4. お薬手帳を使用するにあたって患者さまにお願いしたいこと (地域医療機関さまからも患者さまに向けて発信していただきたい事)

- ・飲んでいてすべての薬を「1冊で」記録することが大切です。病院ごとや薬局ごとに別々のお薬手帳を作らず、情報を一冊にまとめるようにしましょう。
- ・当院だけでなく受診される際は診察券や保険証とともに、お薬手帳を忘れずにお持ちいただき、お薬の受け取りの際に薬局窓口へ提示しましょう。お薬の情報を確認させていただくと共に、その時お渡しするお薬の情報を記載いたします。
- ・お薬手帳には、患者さまのプロフィール(氏名、生年月日、アレルギー歴など)を記載できるページがあります

ので、情報を患者さまご自身で記入しましょう。

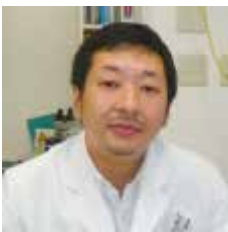
- ・飲み合わせや副作用の原因となるため、市販されている薬や健康食品、サプリメントに関しても記載しましょう。
- ・かかりつけの医師、薬剤師がいる場合には記載しましょう。
- ・お薬手帳は患者さまのものです。体調の変化や検査値、初めてのお薬を服用したとき、服用する用量が変更になったときなどに、不具合が生じた場合は、お薬手帳に記載しておきますと患者さまの状態を確認するときに重要な情報となりますので、記入しましょう。
- ・お薬手帳への記載がいっぱいになった場合に、保険薬局や病院・診療所のお薬窓口で新しいお薬手帳をお渡ししますが、新しいお薬手帳に記載された情報が増えるまでは、古いお薬手帳をいっしょにしておき、薬局窓口で提示しましょう。

地域医療機関さまより



医療法人三紫会 小田病院

院長 小田 常人



当院は昭和26年11月、鴨川市に祖父が診療所を開院し、鴨川駅のすぐ近くという立地の良さもあり、地域の皆様に支えられて、活動してまいりました。当時祖父は原付バイクを運転して、往診へ行っていた

ようで、今でもその当時のことを患者様からお聞きすることがあります。小さな診療所から出発し、病院へと転換して、平成18年に老朽化した建物から全面的に立て替えて、現在に至ります。現在当院は、60床の療養病床を有しており、急性期、亜急性期を脱したにもかかわらず在宅に戻れない患者様の受け皿として、機能しています。病棟では医師、看護師、介護士、栄養士、理学療法士などのスタッフが定期的なミーティングをしながら、入院患者一人一人に合った的確な治療、ケアを行っております。外来診療では、生活習慣病に対する指導、投薬を中心とする一般内科に加えて、上部、下部消化管内視鏡、腹部エコーを用いた消化器内科にも力を入れております。特に上部内視鏡は経鼻内視鏡を用いており、苦痛が少なく会話をしながら検査もできるため、患者様からも好評を得ております。また皮膚科外来を週一回、整形外科外来を週二回行っており、外来リハビリには理学療法士4人で対応しております。予防

医学においては、各種のワクチン接種、企業検診、人間ドックも積極的に行っております。

高齢化の進む安房地域において、今後もますます必要になってくる介護の分野では、通所リハビリひまわり、鴨川市唯一の認知症対応型デイサービスげんき、サービス付き高齢者住宅あゆみを運営しております。当院の通所事業では、認知機能の低下した患者様はげんきで受け入れ、それぞれの役割を担っております。訪問リハビリに関しても、理学療法士2名を配置して、他院からの依頼にも積極的に応じております。

このように当院では、医療と介護の両面に力を入れ、その橋渡しがスムーズにできる体制を今後も継続して構築していきたいと思っております。これからも地域に密着したより良い医療、介護サービスを提供し、地域に愛され、信頼される病院を目指して、職員一同一致団結して取り組んでまいります。

小田病院 理念

地域に密着してよりよい医療と介護サービスを提供し、地域に愛され、信頼される病院を目指す

基本方針

- 快適で人間味ある温かいサービスと療養環境を備えた病院
- 他の病院との連携を密にする病院
- 職員全体が経営に参加する病院
- 職員一人ひとりが能力向上に努める病院
- 職員一人ひとりが幸せでやりがいのある病院



当院診療科より

亀田総合病院 放射線科部長・画像診断センター長
亀田京橋クリニック 診療部部長(放射線科担当)
兼務 町田洋一



▲亀田総合病院



▲亀田京橋クリニック

放射線科は、放射線照射を画像化して診断・治療に活用する放射線診断と、がん等の病変に照射して治療に利用する放射線治療に分けられます。それぞれ別の専門医制度が設けられており、専門医は診断と治療、どちらかに専念しています。ここでは放射線診断についてご紹介します。

放射線画像診断は単純写真が主流の時代からCT、MRの出現とそれぞれの機種種の進化、フィルムをシャーカステンに懸けて診るスタイルからモニター診断と、機器の進歩に伴い業務量や内容が目まぐるしく変化してまいりました。現在、当院ではCT部門は320列のCTを用いて心臓冠動脈など専門性の高い画像診断を行い、MRについても拡大する需要に応えるべく、今年度中に

新規機種を増設を予定しています。

遠隔デジタル画像診断センター

東京都中央区にある亀田京橋クリニックが2018年8月に拡張オープンし、これに伴って亀田京橋クリニック内に遠隔デジタル画像診断センターが開設されました。これは亀田総合病院、亀田クリニックをはじめ、亀田グループ内各施設で撮影された画像を集的に管理・診断業務を行うことを目的として開設されたもので、亀田総合病院内の読影室に加え、当センターを利用することで専門性の高い読影力を確保し、迅速に臨床側に提供することに成功しています。

また、当センターは臨床病理科との合同部署でもあり、臨床病理科医との合同カンファレンス(Radiological-Pathological Conference)を週2回のペースで開催し、より精度の高い診断の提供を行っています。

PET-CTセンター

PET-CTは放射性同位体を含んだ薬剤(トレーサー)を注入して体内の機能を視覚化する検査です。当院では糖代謝用のトレーサー18F-FDGを自施設内で精製しています。他の画像診断では指摘や診断の難しい病変の診断にPET-CTが有用です。

当院PET-CTセンターは2006年に開設、PET-CT2台を擁し院内だけでなく地域の医療機関様よりご紹介をひろく受け入れて参りました。2017年には、PET-CTを当時最新の機器に更新し、精度の高いPET画像を迅速に撮影することが可能となっています。また、読影についても専門性の高い読影を提供できる体制を整えています。

Interventional Radiology (IVR)

放射線科診断専門医が行う侵襲性の検査、治療を総称してIVRと呼びます。X線やCT、超音波、MRIなど画像をガイドにしつつ、標的の病変を採取(生検)したり、緊急性の高い出血に対する血管塞栓術、膿瘍に対する画像ガイド下ドレナージ術などを日常的に行っています。また、当院に特徴的なIVRとして、肺がんを凍らせて治療する肺がん凍結療法を、呼吸器外科と連携して行ってまいりましたが、このたび、有痛性骨転移病変に対する疼痛緩和のための骨病変凍結療法も開始する運びとなりました。また、難治性の乳び胸に対する共感塞栓術をはじめ、専門性の高い手技にも取り組み、成果を上げています。

おわりに

おかげさまで持ちまして、当科では2019年度、CT165件、MR208件、PET-CT49件のご紹介を賜りました。この場をお借りし、日頃のご高配に厚く御礼申し上げます。

冒頭にも述べた通り、放射線診断は早い勢いで発展を遂げてきた分野で、今後人工知能(AI)の臨床導入も進み、さらに形を変えつつ進化していくと思われます。われわれもこれら時代の変化に積極的に対峙、活用し、より医療全体や地域の健康増進に貢献できるよう進化していきたいと思っております。今後ともご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。

リンパ浮腫で悩む患者さまを減らすための試み

第1回

亀田リンパ浮腫センター開設のお知らせ

亀田医療大学看護学部看護学科 講師
リンパ浮腫センター リンパセラピスト
千葉恵子

はじめに

2008年12月からリンパ浮腫に対し保存療法を外来で開始し12年経過しました。当初、患者さまだけではなく医療者もリンパ浮腫に対する知識や認識が不足している中で始めた外来では、試行錯誤の連続でした。少しずつ認知度はあがりましたが、それでも、受診に至るまでに時間を要することも多く、行き届かないことも多かったと思います。

リンパ浮腫は、一度発症すると改善が難しいといわれており、早期から浮腫を悪化させないような指導が必要とされています。しかしながら、リンパ浮腫外来を開設した当初は、すでに浮腫を持ちながらも生活している方々が多く、蜂窩織炎を繰り返すなどで重症化していく方々に対し、対処療法の指導やケアを行うことしかできませんでした。患者さまと試行錯誤しながら、どうしたら今より悪くならないように生活していくことができるのかということを考える状況でした。

このような中、2018年2月、リンパ浮腫に関する専門医師の赴任により、リンパ管の状態を検査することが可能になりました。それにより、リンパ浮腫の早期診断や患者さまの状態に合わせたケア指導がよりきめ細やかに行えるようになりました。なによりも、保存療法のみでは改善困難であった浮腫に対し、外科的治療を追加することで、浮腫の悪化を防ぎ、浮腫に伴う痛みなどの不快な症状を軽減することができるようになりました。

そしてこの度、4月1日よりリンパ浮腫に対する専門的治療を行うための「リンパ浮腫センター」を開設することとなりました。長年かけて細々と続けてきた活動が形になり、新たにスタートを切ることとなりました。

そこで、かめだよりを通して、今回から4回シリーズでリンパ浮腫について紹介していきます。

第1回目は、「リンパ浮腫センター」について紹介します。

当センターは、がん治療後の患者さまのQOLやADL向上に寄与することを目的としています。がん治療(手術・放射線治療・化学療法など)後に一定の割合でおきる上肢や下肢のリンパ浮腫患者数は日本で約25万人と言われており、がん治療の進歩によるがんサバイバーの増加に伴い、今後増加の一途をたどると考えられています。

当センターでは、乳腺科・婦人科・放射線科/画像診断センター・看護師や理学療法士などの他職種との緊密な連携の下、リンパ浮腫の包括的診断・評価を行い、リンパ浮腫の早期発見・早期治療に注力するとともに、患者さまのニーズに合わせた適切な保存的治療・外科的治療によるオーダーメイド治療を提供してきます。

当センターは、多職種で構成されており、医師は、林明辰(リンパ浮腫センター長)、福岡英祐(乳腺科主任部長)、町田洋一(放射線科部長・画像診断センター長)、松浦拓人(産婦人科部長代理)、リンパセラピストは、沼口友美、金子真紀代(リハビリセラピスト)、ケリー由美子、原浩子、千葉恵子(看護師)です。

検査や診察を行うリンパ浮腫外来と保存療法を行うリンパケアは、亀田クリニックと亀田京橋クリニックの2か所で行っています。また、手術は、亀田総合病院にて行っています。

受診の方法は、当院予約センターで、リンパ浮腫外来を予約してください。初回は、浮腫の状態を確認し、患者さまの状態に合わせた治療方法を検討します。医師の診察後に、医師が必要と判断した場合、リンパケア外来にて浮腫ケア指導など保存療法を提供させていただきます(リンパケア外来は自費診療です)。

詳しくは、パソコンやスマートフォンなどで『亀田総合病院 リンパ浮腫センター』と検索し、リンパ浮腫センター公式ホームページをご参照ください。



スタッフ ひろば

地域医療連携室
メンバーから

今回のご紹介内容

- ・氏名
- ①部署 / 職種
- ②好きなかき氷の種類
- ③宝くじで1億円当たったら？



蔵本 浩一

- ①診療部
疼痛・緩和ケア科 医師
- ②抹茶ミルクぜんざい
- ③亀田病院のYouTubeチャンネルの登録者数を100万人にする(ために投資する)



大川 薫

- ①診療部 在宅診療科,
地域医療支援部 医師
- ②雪花氷(シェーファー
ピン), 味は不問
- ③黙っておく



草薙 洋

- ①診療部
消化器外科 医師
- ②水(スイ)
- ③悠々自適



丸山 祝子

- ①看護管理部
助産師
- ②練乳いちご
- ③こども食堂の開設



杉田 登子

- ①地域医療連携室
看護師
- ②抹茶ミルク
- ③世界旅行へ行く



井野 友美子

- ①看護管理部
看護師
- ②いちごミルク
- ③旅行, コロナの影響で困っている人の手助け



打野 弘子

- ①総合相談室
看護師
- ②いちごミルク
- ③世界旅行, 介護付高級マンション



吉野 有美子

- ①総合相談室
看護師
- ②抹茶味
- ③全て自給自足できるように環境を整える



安室 修

- ①薬剤部
薬剤師
- ②抹茶あずき
- ③バスタブに入れて札幌風呂の写真をとってSNSに投稿します



鎌田 喜子

- ①総合相談室 MSW
- ②宇治金時ミルク白玉のせ
- ③高原に別荘を買う



児玉 照光

- ①総合相談室
MSW
- ②メロン
- ③別荘を買う



新田 静江

- ①亀田医療大学
教員(看護師)
- ②抹茶あずき
- ③1割を旅費に使い, 9割は学生向けの「奨学金」を設ける



中村 雅代

- ①地域医療連携室
事務
- ②練乳あずき
- ③世界遺産巡り



林 裕子

- ①地域医療連携室
事務
- ②いちごミルク
- ③家を建てたい



黒川 亜純

- ①地域医療連携室
事務
- ②いちごミルク
- ③全国の水族館巡りの旅に出る



松井 陽

- ①地域医療連携室
事務
- ②いちごミルク
- ③世界絶景めぐりをする



生稻 秋穂

- ①地域医療連携室
事務
- ②いちご
- ③貯金する



大橋 洋子

- ①地域医療連携室
事務
- ②おしるこミルク
- ③温泉付きの家を買いたい



唐鎌 房子

- ①地域医療支援部
事務
- ②あずきミルク
- ③マンションを2カ所購入し, 季節により選んで住みたい

亀田総合病院スタッフの マイブーム

「やっぱり最後は」

運動不足と日頃の不摂生がたたり大分お腹にお肉がついてきて、メタボまっくら…

健康診断では血中脂質検査や肝機能検査でD判定が続き、定期受診を余儀なくされました。

週1〜2回ジムに通い始めたが、仕事の都合で通う事が困難となり1年程でリタイア。

学生時代に陸上競技をしていた事もあり、2年程前から一念発起しランニングを始めました。短距離選手だったため長距離走は大の苦手であり、最初は1kmもまともに走る事ができませんでした。膝などの痛みと闘いながら、徐々に距離を伸ばし、現在は10km程度まで走れるようになりました。まだまだ遅いですが、ペースも徐々に上がってきました。スマホにインストールしたアプリが、走行距離やペースをリアルタイムに教えてく

れます。本当に便利です。今では休日に走らないと気持ち悪いと思える程習慣化されました。

以前、御徒町にあるART SPORTS (今は石井スポーツに吸収されています) というショップのランニングシューズやウェアなどを販売するフロアで働いていた事もあり、シューズ選びなどは少しこだわりがあります。靴を選んでいるときはひそかな楽しみです。今話題の厚底シューズもいつか履いて走りたいと夢見ています。

元々は健康的な身体作りのために始めたランニングですが、ランニング後、シャワーを浴び、冷たいビールを飲む事が最高のご褒美で走るためのもうひとつの目標?でもあります。自分自身、食事制限や休肝日を設ける事が大きなストレスとなるため、適度な運動をこれからも続けていきたいと思っています。今は検診の数値も以前より改善されてきたため大好きなお酒を毎日ほどほどに飲んでます。

N・Y

院内がん登録について

医療情報管理室 室長 佐川智紀(院内がん登録担当)

当院では、地域がん診療連携拠点病院として「がん登録等の推進に関する法律」及び「院内がん登録の実施に係る指針」に基づき、院内がん登録を行っています。

登録したデータは、国及び千葉県のがん対策に活用する為のデータとして、院内がん登録の全国集計及び全国がん登録へ提出しています。

院内がん登録については、指定要件として、「専従で、院内がん登録の実務を担う者として、国立がん研究センターが提供する研修で中級認定者の認定を受けている者を1人以上配置すること」とされており、当院では医療情報管理室に所属する院内がん登録実務中級者2名を中心として初級者2名を含む4名が「がん診療連携拠点病院等 院内がん登録 標準登録様式」に基づき、年間約2,900件のがん登録を行っています(2019年度は、2018年症例2,898件の登録をしました)。

がん登録データは、集計して海外(主にアメリカ)と比較するために、がんの局在及び形態は国際疾病分類 腫瘍学(ICD-O-3)に基づきコーディングを行い、分類についてはUICC-TNM分類を用いてステージを行います。このため、各がん拠点病院

からのデータ精度を担保するためとして、現在実務者は4年間の認定制となっており、研修及び試験合格により認定が更新されます。

各がん拠点病院からのデータは、国立がん研究センターで都道府県別・各施設別に集計され、院内がん登録の全国集計及び5年生存率集計として報告書及び国立がん研究センターがん情報サービスでweb公表されています。

院内がん登録項目の中に「来院経路」がありますが、これはがん患者さまがどのような経路で当院を受診したかを把握するものです。この項目の約60%の登録は「他施設からの紹介」であり、このことから当院での新規がん患者さまについては、地域の医療機関さまから紹介頂いた患者さまが多い事が分かります。

地域の医療機関さまから頂く紹介時の情報提供書及び、患者さまがお亡くなりになった際の死亡報告書の詳しい内容は、がん登録情報及び予後情報と活用させて頂いており、大変感謝しております。今後ともひきつづきご協力をお願い申し上げます。

勉強会・研修会スケジュール

○2020年度がん看護実践コース研修

*本年度の基礎コースは開催し終了いたしました。

日程：1日目-2020年11月30日(月)8時~17時

2日目-2020年12月7日(月)8時~17時

会場：亀田総合病院B棟7階看護研修室

*詳しくは同封のご案内をご参照ください。

*COVID-19の影響で今回ご案内させていただく内容に変更が生じる可能性がございますが、ご了承くださいますようお願い申し上げます。

○地域看護勉強会

日程が未定ですが、在宅看護認定看護師・脳卒中リハビリテーション看護認定看護師が講師となり、勉強会を開催予定です。本年度はリモートでのオンライン勉強会を予定しております。詳細が決定しましたら改めてご案内いたしますので、よろしくお願いいたします。

他勉強会・講演会の開催については検討中です。決定しましたらご案内いたします。